

国際コンファレンス

「持続的・包摂的な成長に向けたアジア金融セクターの強化」

セッション1 「グローバルな金融規制改革 – アジアへのインプリケーションと教訓」

クロスボーダー規制に関する欧州の経験
– アジアへのインプリケーション

ブルッキングス研究所
経済研究フェロー
ダグラス・J・エリオット

概要

アジアが金融システムの協調および統合の強化を検討しているこの時期に、欧州特にユーロ圏の経験に関心を払うことは賢明である。欧州からはかかる統合の実施方法について多くの教訓を、大半は負の教訓だが、得ることができる。特に明らかなのは、通貨統合へと進んだことによってユーロ圏内の金融システム統合管理能力には予期しない重大な結果をもたらされたことである。通貨統合により、ユーロ参加国では自国のマクロ経済政策及びマクロブルーデンス政策の運営を通じて金融システムの安定を維持する能力が著しく弱まった。

通貨統合によるこうした問題を別にしても、欧州は金融システムを多くの面で非常に緊密に統合した一方、各国の金融監督当局間の協調メカニズムについては非常に脆弱なものしか構築しなかったため、多大な被害を被った。また、欧州中央銀行が金融危機の際に形式的に最後の貸し手となることを禁じたことも誤りであった。

欧州の経験によって、アジアが適切な協調および統合の強化を模索することを断念してはならない。しかしこうした経験は、アジアが長期間にわたる慎重で段階的なアプローチ–域内の多くの国はこうしたアプローチをとることで知られている–をとることを強く促す。特に、アジアは、共通の監督アプローチ、情報共有、危機の際の協力に向けて必要な処置を講じる場合、前向きに取り組める範囲でこれを進めるべきである。責任を伴うことなく統合の恩恵を得ようとする、将来災難を招くこととなるだろう。